



ドクター・ワッシー

診察室

ざくばらん

頭痛薬原因か

精密検査して

可逆性脳血管攣縮症候群

頭痛を和らげてくれる薬や、こころを楽にしてくれる薬である。みんな、安心して使っているものだ。そんな薬でも、意外な病気を引き起こすことがある。

36歳のM子さん。思春期から、月に3、4回は頭痛で寝込むことがあった。が、数年前から片頭痛の特効薬を使うようになった。以来、頭痛は怖くなくなった。薬になった。だが、今回の頭痛は、いつもと違う。でも、痛いから、とにかく薬をのんだ。が、効かない。で、また薬をのんだという。いや、アブナイ話だ。頭痛の起き方や痛み方、経過などをじっくり聞けが、記憶は定かではない。頭のMRA（磁気共鳴血管画

像）の検査をしてみる。と、脳の血管の一部が数珠状に見えるではないか。ならば、今回の頭痛の原因は、可逆性脳血管攣縮症候群（RCVS）かもしれない。だから、特効薬がいつものように効かなかったのだ。

RCVSは30、40代の若い女性に多い。脳動脈の一部が一時的に縮んで（血管攣縮）、時には脳梗塞や出血を起こすことがある。頭痛は、片頭痛と違って、一定期間毎日のように、力んだ後などに繰り返し起きる。どうしてそんなことになるかは、よく分からない。だが、なぜか片頭痛のひとつや片頭痛だった女性に多い。で、片頭痛の特効薬もRCVSに関係しているのではないかと考えられている。同じようにRCVSとの関連が疑われているものに、SSRIといううつ病の薬がある。

ところで、RCVSでも、頭痛が起きない時期や、頭痛のないタイプもあるという。とすれば、片頭痛の特効薬やうつ病の薬をのんでいるひとは、頭痛の有無に関わらず、時には、頭の精密検査をしたほうが良いことになる。だが、そういう患者さんに限って検査を嫌がる。コワさを知っている医者も縮まる。



イラスト・野畑桃花

（石黒修三＝いしぐろクリニック
・脳神経外科専門医、金沢市在住、
射水市出身）